

3月9日の米国株式市場の下落について

新型コロナウイルス懸念と原油価格急落が株価下落を加速

2020年3月10日

ニューヨーク株式市場は一時取引停止

3月9日（現地、以下同様）の米国株式市場は、アジア、欧州等、各国株式市場が大幅安となった流れを引き継ぎ、NYダウ、S&P500、ナスダック総合の主要3指数がいずれも7%を超える下落になりました。ニューヨーク株式市場では、2013年に現行ルールとなって以来、初となるサーキットブレーカー（相場が急激に動いた際、取引を一時中断することで、投資家に冷静な判断の機会を与える措置）が発動されるなど、ややパニック的な状況に陥りました。株価急落の要因としては、以下のような点があげられます。

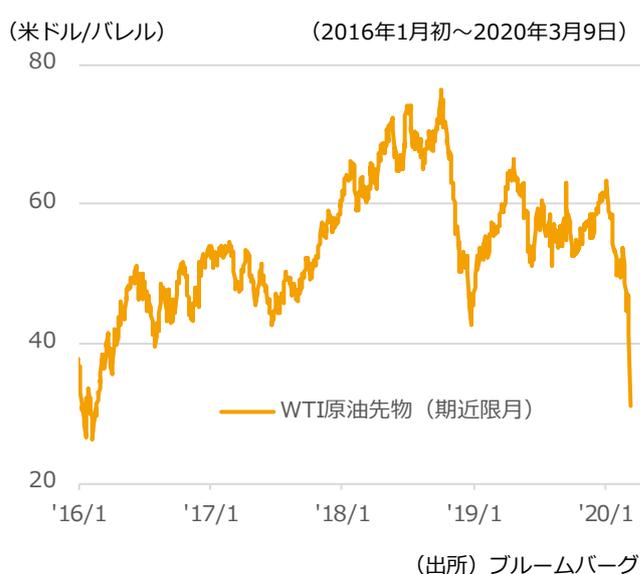
- 新型コロナウイルスの欧米での感染拡大。米国では複数の州が非常事態を宣言しているほか、イタリアでは感染者とともに死者も急増しており、市場参加者の不安が高まったとみられること。
- 「OPECプラス」会合での原油減産交渉の決裂。ロシアが減産を拒否し、サウジアラビアが増産に転じる姿勢を示したことで、原油価格が急落し、金融市場全般への悪影響が懸念されたこと。
- 投資家のリスク回避姿勢の強まり。米国の長期金利が急低下するなど「質への逃避」が加速したこと。

当面の株式市場は、新型コロナウイルス問題への懸念から不安定な推移が続くと考えられます。ただし、先行して感染者が発生した中国や、韓国、日本の状況などをみると、適切な感染防止策が実施されれば感染拡大の抑制は十分可能とみられます。各国の感染拡大ペースが鈍化してくれば、市場では各国が打ち出している経済支援策の効果発現への期待が急速に高まる可能性もあると考えられます。

米国の株価と長期金利



原油価格



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。